令和２年６月定例会一般質問発言通告表

発言順序	１４	議席番号	１７	氏名	稲　葉　晃　司　　議員	１/２

発言項目	要旨	答弁者
１　下水資源の活用について	(1)　京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻教授の藤井聡先生の論文「「下水資源」イノベーション：都市に眠る宝の山」では、①下水から天然ガスエネルギー、②下水から電力（ガス火力発電、汚泥燃料火力発電、水力発電）、③下水の熱利用、④下水から水素を作りＦＣＶ（燃料電池自動車）の普及、⑤様々な活用として肥料（特にリン）と建設資材、これらが有効利用の資源とされているが、現状、下水資源の４分の３が未利用となっており（２０１４年度）、まさに下水資源は都市に眠る宝の山である。そして、下水といえば従来の汚泥処理というネガティブなものを除去するということから、資源やエネルギーといったポジティブなものを作りだすという新しい価値に目を向ける転換期にあると論じている。これを読んで改めて下水の持つ都市資源に関心を持ったことから富士宮市の下水資源を生かしていくための取組について伺う。 ①　国の示す「下水道イノベーション～日本産資源創出戦略～」に沿った研究検討はされているのか。 ②　生活排水処理センターの敷地内にある星山浄化センター及び衛生プラントの未利用地はどれほどか。また、平成３１年３月２９日、総務省からの「「経営戦略」の策定・改定の更なる推進について」には、民間活力の状況（民間委託、指定管理者、ＰＰＰ、ＰＦＩ）や資産活用の状況（エネルギー利用、未利用土地施設の活用）とあることから現時点で、当局はどのような取組を考えているのか、あわせて今後の下水資源の活用をどのようにして、下水道経営戦略の中に取り入れていくのか。 ③　国土交通省が進める下水道革新的技術実証事業（Ｂ－ＤＡＳＨプロジェクト）に富士宮市として手を挙げていくべきと考えるがいかがか。	市　　長 副 市 長 関係部長
２　星山浄化センターと衛生プラントの排水処理を共同一元化することについて	(1)　富士宮市が平成２７年の機構改革において下水道処理の星山浄化センターと、し尿処理の衛生プラントを下水道課の組織として一体化し、生活排水処理センターとした。下水道が国土交通省、し尿処理が厚生労働省、いわゆる縦割り行政の概念を超えての枠組みを作られたことを評価したい。そこで、組織的だけでなく実質的に合理化、すなわち経費削減のために星山浄化センターと衛生プラントで別々に行われている排水処理を一体として処理することについて伺う。 ①　当局は星山浄化センターと衛生プラントの排水処理の一体化について研究検討はされているのか。実際に進めていくうえでの課題は何か。ソフト面ハード面それぞれについて伺う。 ②　下水道処理費の単価、し尿処理の単価はそれぞれいくらになるのか。また、年度の処理費はそれぞれどれほどになるのか。	市　　長 副 市 長 関係部長

発言順序	１４	議席番号	１７	氏名	稲　葉　晃　司　　議員	2/2

発言項目	要旨	答弁者
３　紙おむつリサイクルでごみ減量化を図る	(1)　本年２月定例会での環境部長の答弁では「近々環境省から示されるであろう紙おむつリサイクルについてのガイドラインを見て取組の方向性を考えていきたい」とのことであった。３月に環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室が「使用済紙おむつの再生利用等に関するガイドライン」を策定・発表した。そこで以下の点について伺う。 ①　ガイドラインの所感について環境部長に伺う。 ②　環境省はガイドライン策定にあたって参考情報とするために、市区町村における使用済み紙おむつの取り扱いに関するアンケート調査を行った（平成３１年度）、この結果も発表されているがこれについての所感も併せて伺う。 ③　概要版が１０ページ、ガイドライン自体は６０ページにもわたるボリュームであることからも環境省の紙おむつリサイクルへの取組度が大きいということ。一般廃棄物に占める使用済紙おむつの割合が６～７％といわれており、紙おむつリサイクルにより焼却灰、ＣＯ２の削減、焼却炉の負担軽減等につながること。他の自治体の取組が遅いことから、いち早く取り組むことにより国の支援や企業の協力が得られやすくなること。環境省だけでなく紙おむつリサイクルは国土交通省でも取り組んでいることから、まさに紙おむつリサイクル事業は国策といっても過言ではないこと。以上のメリットから紙おむつリサイクル事業をＢ－ＤＡＳＨプロジェクトに手を挙げて取り組むべき事業と考えるがいかがか。	市　　長 副 市 長 関係部長